

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立ありあけ新世高等学校(全日制課程)

自己評価 学校運営計画(4月)
Table with columns: 学校運営方針, 昨年度の成果と課題, 評価項目, 具体的目標, 具体的方策, 評価(3月), 次年度の主な課題.

学校関係者評価
Table with columns: 評価(総合), 自己評価は, 項目ごとの評価, 学校関係者評価委員会からの意見.

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
生徒指導	20周年を機に原点回帰し、これまでの基礎の上に新たな新スタイルを築く。 生徒会活動及び部活動、委員会活動の活性化を図り、何事にも主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 安心・安全な学校を目指し、危機管理の徹底と規範意識の醸成を図る。	ディベートに積極的に取り組み、主体性と発言力を育成する。	A	○3年次でディベートに取り組み、表現力、コミュニケーション能力や協調性が養われてきた。学校全体の取組として定着させたい。 ○ボランティアの意義や取り組み方を再構築し、生徒の意欲を喚起する。 ○「新世生の一言、言わせて！」各クラス代表1名が放送による5分間スピーチを行い、全校生徒によい刺激となった。 ○校則について、生徒や保護者の意見を採り入れて改善を図った。生徒の参画意識を高めるのに有効である。	A	・ボランティアを通して、受け身ではなく、自分の意見を述べ、考えを行動できるようになる。非常に熱心に行われているので、今後も是非継続して欲しい。 ・ディベートや5分間スピーチなどの取組は、社会の中で必ず役に立つ。今後は、外部主催の大会への参加につなげられると良い。
		ボランティアを通して、社会との関わりを体験させる。また、福島復興ボランティアを更に推進する。	B			
		ありがたいしんばちの活用方法を考え、地域への発信力を高める。	B			
		部活動紹介や体験入部の内容を充実させ、加入率80%、定着率70%以上を目指す。	B			
		各学校行事後にアンケートを実施し、生徒の行事満足度90%以上を目指す。	A			
		生徒による、朝の5分間スピーチを週1回行う。	A			
		「いじめ防止基本方針」を全職員で共有し、いじめの未然防止・早期解決に努める。	A			
保健環境	自他に対する安全や健康への意識を高め、健康管理ができる生徒を育成する。 教育相談活動の充実を図り、心身ともに健全な生徒を育成する。 環境問題や美化活動に関する知識・理解を深め、主体的に活動できる生徒を育成する。	防災避難訓練前に「危機管理マニュアル」を確認し、全職員・生徒の危機管理意識を高める。	B	○教育相談委員会を定期的に実施し、情報の共有を行い、早期対応に努めている。今後も機動性を高めていく。 ○訪問相談員の拠点校ではなくなったため、特定の教員等への負担が増えたため、教育相談体制の見直しが必要である。 ○スクールカウンセラーによる生徒向けの講話は今後も継続していく。 ○委員会活動は、うまく機能している。今後は、ワンヘルス教育と連携した取組を検討する。	A	・コロナ禍もあり、心の健康相談が必要な生徒が増えている。中途退学防止の観点からも、スクールカウンセラーの派遣日数の増加や訪問相談員の再配置を是非要望してもらいたい。
		校則の見直しを通して、相互で注意し合える仲間と規範意識を高める集団を育成する。	A			
		専門家による健康に関する講演会を実施する。	A			
		保健委員会を活性化させ健康への意識を高めさせる。(委員会毎月2回、保健だより年5回)	A			
		毎朝の検温などで自己の健康管理を行わせる。	B			
		教育相談委員会を月に1度開催し、情報の共有と早期の対応を図る。	A			
		心の教育相談の専門家による講話を2回(職員向け1回、生徒向け1回)行う。	A			
進路指導	3年間のキャリア教育を通して生徒一人一人の進路意識を高める。 進路実現に必要な確かな学力を身に付けさせる。 個に応じた指導体制を確立し、すべての生徒の第一希望進路実現を目指す。	SC、訪問相談員を活用し、教育相談の機会を設け、関係機関との連携を強化する。	B	○「進路の手引き」をガイダンスや進路指導で効果的活用できるように活用計画を提案する。 ○課外授業の受講者数減少及び受講率低下が見られる。ニーズを踏まえて、課外の内容やあり方について検討する。 ○進路希望や科目選択を踏まえた課外授業や模擬試験の奨励、個別指導体制の整備を進める。 ○進学強化クラスの指導については、教務課、教科及び年次と連携し、進学強化委員会の機能を強化させる。	A	・総合学科の強みを活かした進路実現、特に国公立大学合格者を以前のようによく出してもらいたい。 ・簿記などの資格を活かした就職もアピール材料になる。 ・進路指導は学校が一番力を入れるところである。中学校へもつと情報提供をお願いしたい。 ・高校生の離職率が高いとよく耳にする。卒業後も相談できる環境を作ってもらいたい。
		ブラゴミの90パーセント以上分別回収を継続する。	A			
		ガイダンス期間に「進路の手引き」を活用して進路を考えさせる時間を作り、早めに進路希望を明確にする。	B			
		1、2年次で進路ガイダンス、進路講演会を2回以上企画、実施する。	A			
		インターシップや専門学校の無料講座など、生徒の興味関心に応じて校外での活動に参加させる。	A			
		教科、年次と連携し、全員が基礎基本の定着を図り、能力に応じて応用力を養成する。	B			
		前期課外アンケートの結果を後期に生かし、年度末まで課外出席率70%以上を維持する。	B			
総合学科推進	キャリア教育を推進し、全教育活動を通して、社会的・職業的自立に向けた能力と態度の育成を図る。 「産業社会と人間・総合的な探究の時間」の指導内容を充実させ、3年間を通して系統的指導を計画し実施し、総合学科発表会の成功につなげる。 地域との連携を積極的に進め、地域の課題を発見し解決する力などの育成を図る。	3年次の就職・進学面接や小論文を意欲して、1年次から原稿なしスピーチや行事ごとの感想に取り組ませる。	A	○「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」の指導計画及びそれらを中心に据えた本校の3年間を見通したキャリア教育を作り上げる。 ○1・3年次は指導案を基に進めることができたが、新しい取組内容や実施時期については検証が必要である。 ○2年次の地域活性化や福島支援等これまでと異なる形で研究や3年次のディベートの取組の成果を次年度以降も継続する。 ○日本経済大学との高大連携については、年間を通じた活用を検討する。	A	・総合学科発表会では、各年次のキャリア教育の取組の成果が事実に示されていた。もっと多くの観客に見てもらえるように日程等の工夫をする等よい。 ・3年次生や卒業生からのメッセージは、在校生が将来をイメージするのに非常に有効である。
		進学希望者には模試を受験させ、結果を分析し、弱点克服に向けた個別指導を行う。	B			
		公務員希望者には、チームとして互いに切磋琢磨しながら力を付けさせる。	A			
		進路応援助成金を活用して積極的な資格取得を推奨し、進学・就職の強みとする。	A			
		3年間を通した系統的なキャリア教育の共通理解を図り、年次の産社・総探担当者に探究活動などの情報提供を行う。	A			
		全教育活動の中で、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質の育成を意図した指導、助言及び評価を行う。	B			
		産社・総探の授業においては、授業担当者が共通理解をもって指導を行うことができるよう指導案を作成する。	A			
情報管理	校内の設置されたICT機器の積極的な活用を図る。 学習用一人一台端末(Chromebook)上のアプリの積極的な活用や他のICT機器と連携を行い活用の場を増やす。 学習用一人一台端末(Chromebook)の校内及び持ち帰りの活用ルールを適宜見直し、現状に即した有効な活用ルールへ改善し有効性・利便性を高める。 生徒校内ポータルサイトの立ち上げ・Instagramでの情報発信を目指す。 情報セキュリティを強化し情報モラルの向上を図る。	1年次の産社では、体験的な活動や協働的学び合いを重視し、科目選択や進路実現に結びつこう3年間の抱負やライフプランを作り、全生徒が原稿なしによる発表	A	○実践的な研修等により、職員全体のICT活用指導力が向上した。今後も個々の教員が抱える課題解決に向けた体制を整える。 ○端末の個人管理に伴い、破損防止等の対策を整備した。事故対応や利便性の向上を図る。 ○Instagramや生徒ポータルサイトの立ち上げの反響も大きく、今後も積極的に活用し、効果的な情報発信に努める。 ○情報セキュリティに係る問題事案について随時啓発に努めた。セキュリティや規範意識の醸成に向けて、積極的に情報提供を行う。	A	・これからの社会では、ICTのスキルがないとやっていけない。 ・世代によって広報媒体への食いつき方が違う。高齢者は紙媒体、若い人たちにはSNSが圧倒的優位である。使い分けをして、効果的な発信をする等と良い。
		2年次の総探では、個々の進路目標や興味・関心に応じた課題設定を基に課題研究を行い、全生徒がプレゼンテーションを行い、研究の成果を発表する。	A			
		3年次の総探では、協働的な探究活動を通し、これまでの探究活動をさらに深化させることにより、全生徒の第一希望での進路実現を目指す。	A			
		社会人や本校卒業生、地域で活躍されている方による講演会を前期に実施する。	B			
		行政や企業、大学等との連携を中心となって進め、活動報告を総合学科発表会で発表する。	A			
		産社・総探などの活動や成果を地域に発信するために、前期、後期それぞれ5回はホームページの更新を行う。	A			
		ICT機器の配置場所を見直し整備・充実を図る。	B			
情報管理	ICT機器の積極的な活用を図るため、研修会を実施し福岡県ICT活用推進方針で示されている令和5年度「ICT活用指導力チェックリスト」15項目を100%達成する。 学習用一人一台端末(Chromebook)の校内及び持ち帰りの活用ルールを適宜見直し、現状に即した有効な活用ルールへ改善し有効性・利便性を高める。 生徒校内ポータルサイトの立ち上げ・Instagramでの情報発信を目指す。 職員研修会や会議において問題事案など多くの具体的事例を職員・生徒に提供することによりセキュリティや規範意識の醸成を図る。 校務用PCの適切な管理を行い個人情報など情報管理の徹底を図る。 年2回(前期末・後期末)において各サーバー・共有フォルダー内の点検を行い適切なデータ管理を行う。	各ICT機器の利用手順・方法・手続きを明確にし共通認識を深める。	A	○実践的な研修等により、職員全体のICT活用指導力が向上した。今後も個々の教員が抱える課題解決に向けた体制を整える。 ○端末の個人管理に伴い、破損防止等の対策を整備した。事故対応や利便性の向上を図る。 ○Instagramや生徒ポータルサイトの立ち上げの反響も大きく、今後も積極的に活用し、効果的な情報発信に努める。 ○情報セキュリティに係る問題事案について随時啓発に努めた。セキュリティや規範意識の醸成に向けて、積極的に情報提供を行う。	A	・これからの社会では、ICTのスキルがないとやっていけない。 ・世代によって広報媒体への食いつき方が違う。高齢者は紙媒体、若い人たちにはSNSが圧倒的優位である。使い分けをして、効果的な発信をする等と良い。
		ICT機器の積極的な活用を図るため、研修会を実施し福岡県ICT活用推進方針で示されている令和5年度「ICT活用指導力チェックリスト」15項目を100%達成する。	A			
		学習用一人一台端末(Chromebook)上のアプリの積極的な活用や他のICT機器と連携を行い活用の場を増やす。	A			
		学習用一人一台端末(Chromebook)の校内及び持ち帰りの活用ルールを適宜見直し、現状に即した有効な活用ルールへ改善し有効性・利便性を高める。	A			
		生徒校内ポータルサイトの立ち上げ・Instagramでの情報発信を目指す。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
1年次	生徒の進路実現への基礎固めとして、「勉強する身体」を育成する。	1日10分机に向かうことから始め、徐々に家庭学習時間を増やし、180分の生徒を7割達成する。	A	B	A	○家庭学習時間は教科でばらつきがあったり、苦手教科を敬遠したりしているので、全体指導や個別面談により習慣化を図っていく。 ○3教科のBゾーンが28名で前回より増加した。今後、組織的に進路の意識付けを図る。 ○成績不振のために意欲低下にならないよう個別指導を継続する。 ○年次通信により行事の振り返りはできた。キャリアパスポートへの入力が不十分なので、フィードバックを行う機会を確保する。 ○「産社」の発表では意欲的に取り組んだ。次年度も発表の機会を多く設け、プレゼンテーション能力の向上を図る。	A	・進路実現のためには、低学年からの取組が大切である。苦手なことにも挑戦し、より高みを目指してもらいたい。
		大学希望者は模試で偏差値50以上を、その他の生徒はスタディサポートのGTZでBゾーン50名を目指す。	B					
		定期考査の欠点者を少なくするよう、担任と教科担当が連絡し合い、考査2週間前からの計画的な学習を促す。	B					
	キャリア教育を通して、社会や自分のことを知り、自らアイデアを出せる生徒を育成する。	卒業生や外部講師による講話を学期に1度実施し、社会について知ることに努める。	A	A				
		生徒に体験させる場を設け、そこで得たものをフィードバックし発表する機会を作る。	B	A				
		原稿なしスピーチを基本に、自分の考えを見つめ、自分の言葉で表現できる力を磨く。	A	A				
		自らをプロデューサーとする精神を常に意識させ、「新世代」としての自覚を作る。	A	A				
2年次	生徒の第1希望進路実現を見据え、確かな学力をつけた生徒を育成する。	進研模試については、偏差値50以上の生徒を15名、Bゾーンを50名以上を目指す。	B	B	A	○進研模試のBゾーンは20名で目標には届いていない。3月中に志望校検討会を実施し、早期に入試形態に応じた対策を開始したい。 ○キャリアパスポートの活用を推進していく。資格チャレンジは合格につながるように手立てを充実させる。 ○地元企業や自治体と連携したマルシェの取組により、地域活性化が推進できた。福島ボランティアでは、生徒の思いを繋げ、各方面へ発信できたので、継続した取組をしたい。 ○様々な活動を通して、学校のリーダーとしての意識が高まり、主体的に取り組む生徒が増えた。	A	・年次を挙げての、マルシェや福島復興支援ボランティアなど地域や自治体を巻きこんでの活動は非常に素晴らしい。活動の成果を進路実現に是非つなげてもらいたい。
		5月までに資格取得計画を立てさせ、80%の生徒に1つ以上の資格を取得させる。	B					
		個々の進路実現に応じた家庭学習時間平均240分確保するためのタイムマネジメントを工夫させる。	B					
	系統的なキャリア教育を充実させ、豊かな心と、主体的に考え行動できる力を育成する。	キャリアパスポートを電子化し、各行事、ボランティア活動等の振り返りを行い、成長を実感させる。	A	A				
		課題研究に紐付けて、オーム乳業コラボ企画、福島県ボランティアを活性化し、社会に貢献する心を養う。	A	A				
		進路説明会「新世代だけの学校説明会」(仮称)を生徒主体で企画・運営させる。	A	A				
		学校ビジョンや年次スローガンを活用し、学校のリーダーとしての自覚を持たせる。	A	A				
3年次	第1希望の進路実現100%を目指す。	クラス全員と二者面談を行い、生徒理解を深め、資格取得を促すなど具体的な進路指導を早期から継続的に行う。	A	A	A	○各生徒の進路希望や受験方法等の共通理解を図り、三者面談で活用できた。また、小論文や面接の全体及び個別指導を推進できた。 ○体育大会では、年次で協力し、後輩をリードし、達成感のある取組ができた。ボランティアでは積極的に活動の場を見つけ、協調性やコミュニケーション力を育成できた。 ○ディベートに取り組み、活発に意見交換を行う中で、論理的思考力や表現力を高めることができた。 ○年次通信等で学校行事の活動の様子や進路に向けての取組について情報を随時発信することができた。	A	・卒業証書授与式では、生徒たちの3年間での成長が強く感じられた。今後も生徒に自信が持たせる指導をお願いする。 ・進路指導については、最後の一人まで高校卒業後の進路が決まるまで引き続き指導をお願いしたい。
		志望校検討会を実施し、クラス・年次間の共通理解を深める。	A					
		面接指導・小論文指導を早期から着手し、計画的・組織的なサポート体制を確立する。	B					
	社会的・職業的自立に向け、豊かな人生を送るためのキャリア教育の充実と後輩の規範となる生徒を育成する。	新世代の伝統を後輩に伝え、達成感のある学校行事となるように主体性と行動力の向上を図る。	A	A				
		「総合的な探究の時間」では、社会参加への意欲の向上と身近な社会問題や課題について主体的に解決していくという態度を育成する。	A	A				
		進路実現のために外部講師による進路講演会を実施する。	B	A				
		保護者向けの進路説明会、就職説明会を実施し、進路実現に向けての心構えや進路情報を共有する。	A	A				
保護者や地域社会との連携、信頼関係の構築を深める教育活動を行う。	ボランティア活動への参加を促し、公共性、協調性、コミュニケーション力をさらに向上させる。	B	A					
	年次通信を年3回以上発行し、生徒の様子や学校の情報を保護者に発信する。	A	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・総合学科や商業、農業科を使った国公立大学の学校推薦や総合型選抜などの情報を幅広く収集し、本校独自の進路実現の方策を整える。
- ・課題研究やディベート、スピーチなどの学習活動を更に進化させて、校外の大会やコンクールに応募して入賞を目指す。
- ・スクールカウンセラーや訪問相談員を活用した教育相談体制をより充実させ、中途退学や不登校防止対策を強化する。
- ・多岐に亘る進路希望に対応するために、個別最適な学びを実現する授業改善や教育環境の整備に努める。
- ・SNSなどを効果的に利用した情報提供や中長期的な生徒募集を視野に入れた地域貢献活動などにより効果的な広報活動に努める。

評価項目以外のものに関する意見

- ・中学校における高校入試の志願状況は、例年私立専願が7割、公立推薦が3割であった。昨年は専願と推薦で8割に増えた。中学生・保護者は進路を早く決めたいと思っている。中学校では思考を問う授業に力を入れているものの、年々一般入試志願者が減少している。